

令和7年度第1回札幌市学校給食運営委員会 議事録

I 開催日時

令和7年9月16日(火) 9:30～

II 開催場所

S T V北2条ビル4階教育委員会会議室

III 出席者

1 委員 11名

- 小野委員、佐藤(浩)委員 (札幌市小学校長会2名)
- 伊東委員、東海林委員 (札幌市中学校長会2名)
- 松宮委員、佐藤(あや)委員、先崎委員 (札幌市学校給食栄養士会3名)
- 先名委員、橋本委員、寺村委員 (札幌市PTA協議会3名)
- 杉村委員 (学識経験者1名)

2 事務局 7名

- 大森学校給食課長、清水給食係長、安達給食制度担当係長、溝口給食費事務係長、大塚栄養指導担当係長、松本栄養指導担当係長、見澤給食係員

IV 欠席者

田中委員、高屋敷委員、安藤委員

V 傍聴者

報道機関記者 1名

VI 開会

開会に当たり、大森学校給食課長より挨拶

【要旨】

- 当委員会は、札幌市附属機関設置条例に基づき、本市の学校給食の運営に関する必要な事項について審議することを目的に設置されている。
- 昨年度は、令和7年度の学校給食費について審議いただき、近年の物価高騰を加味した1食当たりの食材費をお示しいただいた上、保護者に御負担いただく学校給食費の額については昨今の実質賃金の状況などを考慮し、これまでどおり負担軽減について配慮をいただきたいといった内容の答申をいただいた。
- 本日は諮問書や学校給食の概要、統一基準献立等について説明する。

VII 委員長及び副委員長の互選

事務局提案が全会一致で承認され、以下のとおり委員長・副委員長が選出された。

- 委員長 田中委員 (札幌市小学校長会)
- 副委員長 先名委員 (札幌市PTA協議会)

VIII 諮問

事務局より、教育長からの「令和8年度学校給食費について」の諮問書が読み上げられた。副委員長より、答申は第2回委員会で決定する予定である旨、説明があった。

IX 議事

1 札幌市における学校給食の実施状況等について

(1) 学校給食の概要について

【事務局説明】

ア 小・中学校の給食実施状況

札幌市では、市立小中学校等297校、約14万食の完全給食を提供している。

イ 学校給食の実施形態

自校と近隣校の2校分を調理する「親子方式」と、自校分のみを調理する「単独調理校方式」を併用している。

ウ 学校給食関係職員数

栄養教諭・栄養士160名、直営調理員105名を配置している。全体の約9割にあたる282校では、民間業者が調理・配膳業務を実施している。

エ 学校給食関係予算

令和7年度の食材調達以外の学校給食関係予算は、業務委託費（約66億円）などを含め約69億円となっている。

食材調達に係る費用は、保護者負担分（81億円）と公費負担分（14億5,100万円）などを含め、合計で約97億7,500万円の予算となっている。また、物価高騰対策として年度途中に5億2,600万円の補正予算が組まれた。

【質疑応答】

特になし

(2) 学校給食の献立及び使用物資について

【事務局説明】

ア 献立について

「札幌市学校給食摂取基準」に基づき、全市統一基準献立（小学校1種類、中学校1種類）で実施している。

1日に必要な栄養量の3分の1程度を摂取できるよう基準を設定しているが、不足しがちなカルシウム、鉄、ビタミン類はやや多めに摂取できるよう配慮している。

日本の食文化の伝承や地産地消の観点から、多様な食材や料理を取り入れている。

献立は、「栄養管理」「望ましい嗜好の育成」「衛生管理」「食に関する指導との関連」「地場産物の活用」など7点に配慮して決められている。

イ 使用物資について

安全で品質の良い物資を安定供給するため、大部分を（公財）札幌市学校給食会などを通して共同購入している。

地産地消の観点から可能な限り北海道産を優先しており、道産品の使用割合は78%となっている。

【質疑応答】

特になし

(3) 学校給食食材の安全・安心の確保について

【事務局説明】

ア 給食食材の検査体制

学校に納品された食材について、微生物検査、理化学検査（残留農薬検査、食品添加物検査）を実施している。

イ 学校給食調理場における安全管理

「札幌市学校給食衛生管理マニュアル」に基づき、安全管理を行っている。

ウ 情報提供

検査結果は全給食実施校に情報提供し、札幌市ホームページでも主な食材の産地情報等を公開している。

【質疑応答】

特になし

(4) 学校給食費について

【事務局説明】

ア 学校給食費とは

施設、設備、運営経費などは公費負担であり、保護者が負担する学校給食費は、全額を食材購入に充てている。また、昨今の物価高騰の影響により値上がりした分の食材購入費は公費で負担している。

イ 令和7年度の学校給食費

保護者負担額は令和2年度より据え置いている。

ウ 令和7年度学校給食食材費の公費負担について

保護者の負担を抑制し、栄養バランスを保った給食を提供するために実施。

当初予算14億5,100万円に加え、5億2,600万円の補正予算が議決され、公費負担の予算総額は19億7,700万円となっている。

エ 学校給食費の無償化について

国は、給食費の無償化を令和8年度の予算編成で具体化し、実現することを閣議決

定した。

札幌市で無償化する場合、年間約92億1,200万円が必要と試算されている。

文部科学省では、無償化の課題として「児童生徒間の公平性」や「格差是正策としての妥当性」などが整理されている。

【質疑応答】

発言者	発言内容
委員	教職員の給食費にも公費負担はあるのか。
事務局	教職員の給食費に公費負担はない。
委員	給食費無償化については、この委員会でも後々議論されるのか。
事務局	無償化は財源の話であり、この委員会で審議する献立内容や1食単価とは直接的には関わらない。
委員	無償化に対する課題として資料に挙げられている内容は、文部科学省が整理したものか。
事務局	文部科学省で整理した課題である。

2 統一基準献立（令和8年度）について

【事務局説明】

- (1) 令和8年度の統一基準献立案（4月～7月分）と、1年間の栄養価及び価格（参考）を提示した。
- (2) 新学期にはアレルギー対応が少なく食べやすい献立を多くするなど配慮しているほか、旬の食材や世界の料理なども取り入れている。
- (3) 決定した統一基準献立は、各学校の行事や食指導に合わせて追加・変更して使用するため、全ての学校が同じ日に同じ内容の給食を食べるわけではない。

【質疑応答】

発言者	発言内容
委員	各学校で献立を組み替える際の基準を具体的に教えてほしい。
事務局	まずは各校で定められた主食の曜日に合わせて組み替える。その後、各学校の食指導計画や予算を踏まえながら、献立を変更・決定している。

3 学校給食費について

【事務局説明】

- (1) 学校給食費の保護者負担額は令和2年度以降据え置きとなっているが、令和4年度からは食材費の価格高騰分を公費で補填し、給食内容を維持している。
- (2) 令和8年度の学校給食費については、資料で示した統一基準献立を基準に実施する場合、札幌市の食品の消費者物価指数を考慮した1食単価が必要であると考えている。
- (3) これまでどおりの栄養バランスや量を保った給食とするために必要な金額がいくらが妥当か、どのような考えの下で積算すべきか、審議をお願いしたい。

【質疑応答・委員意見】

発言者	発言内容
委員	今の給食費でも足りない状況で、品数が減ったり、旬の果物が使えなくなったりしている。子どもたちの心身の成長のためにも、これまでの上昇率だけでなく、今後の物価上昇も加味して考慮してほしい。
事務局	物価上昇が続いている状況は認識しており、今年度も補正予算で対応した。今後の推移は予測が難しいが、想定を上回る物価上昇が起きるようであれば、これまで同様、栄養や質、量を落とさないような対策を検討していきたい。

4 その他

【事務局から】

(1) 札幌市持続可能な学校給食提供の在り方検討会議について

児童生徒数の減少や担い手不足、運営費の増大、施設の老朽化といった課題に対応し、今後も安定的に給食を提供していくための在り方を検討する会議を、今年度別途設置している旨、情報提供があった。

(2) 今後の予定について

第2回の運営委員会は11月の開催を予定している。

次回委員会では来年度の給食費について審議し、答申を決定する予定のため、各委員には、本日の内容を各団体に持ち帰り、団体としての意見を踏まえて審議に臨めるよう調整をお願いした。

× 閉会